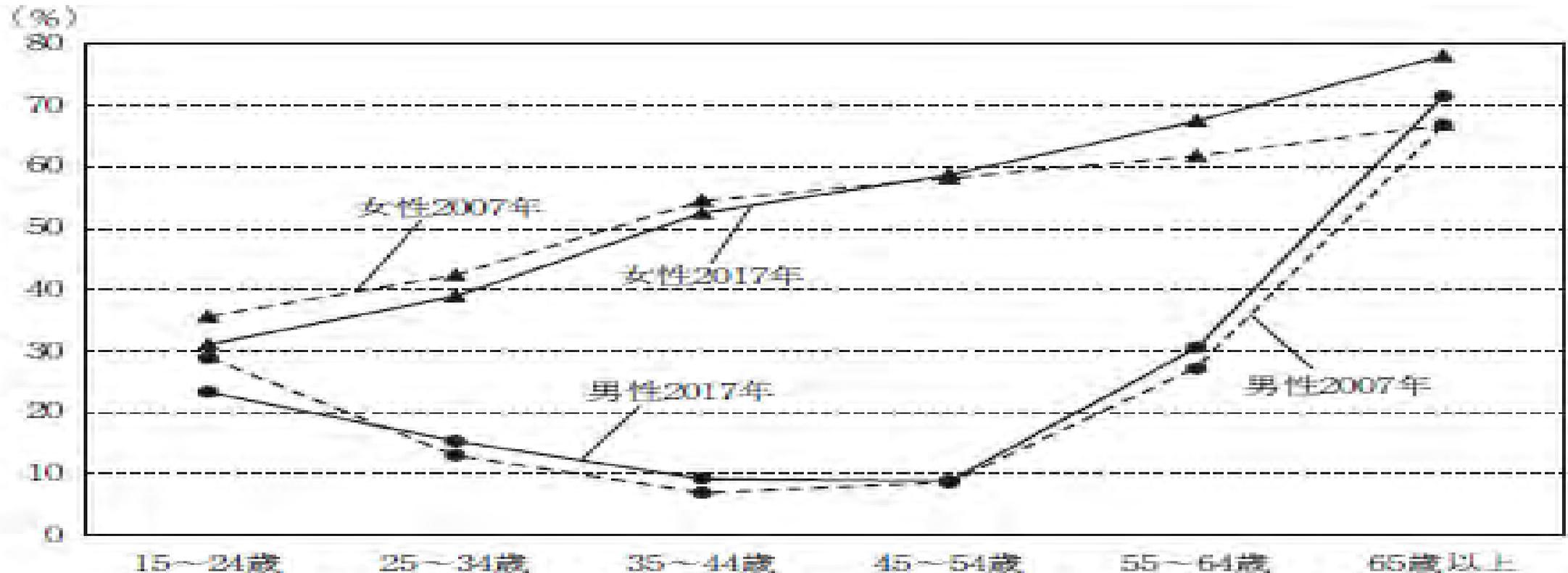
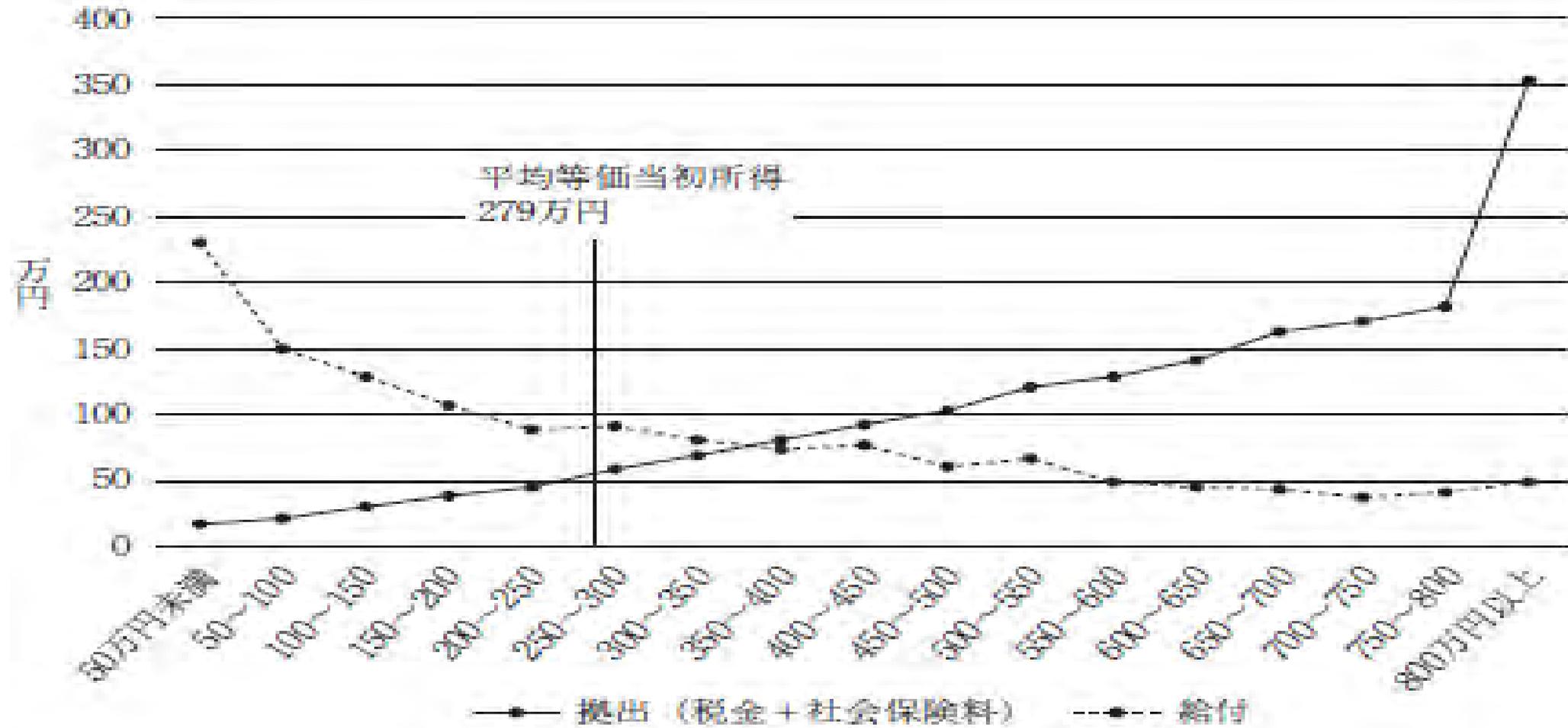


# 男女別年齢階層別非正規雇用比率（2007年，2017年）——胃袋型グラフ

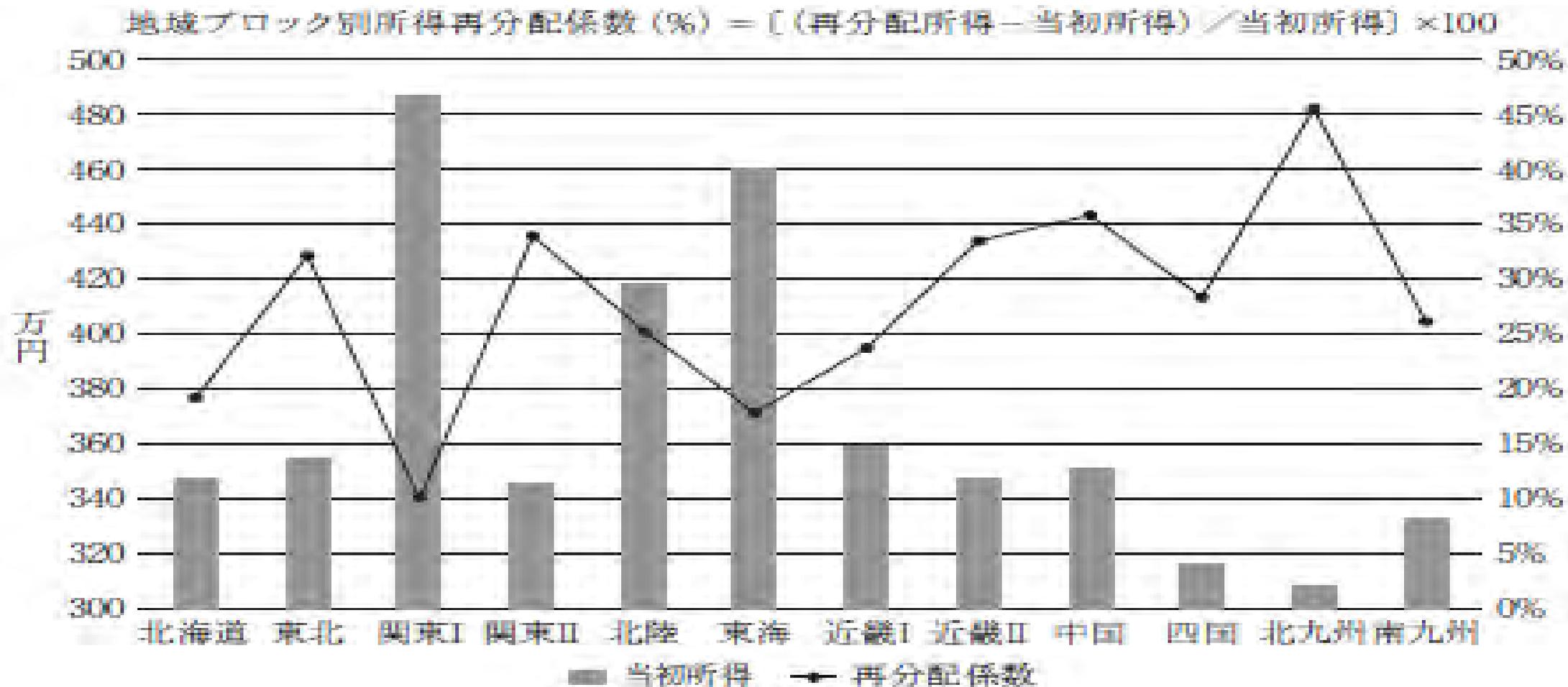


注：役員を除く雇用者に占める非正規の職員・従業員の割合。15～24歳は在学中を除く。  
出所：総務省統計局「労働力調査」より筆者作成。

# 当初所得階級別所得再分配状況（等価所得）



# 地域ブロック別再分配係数

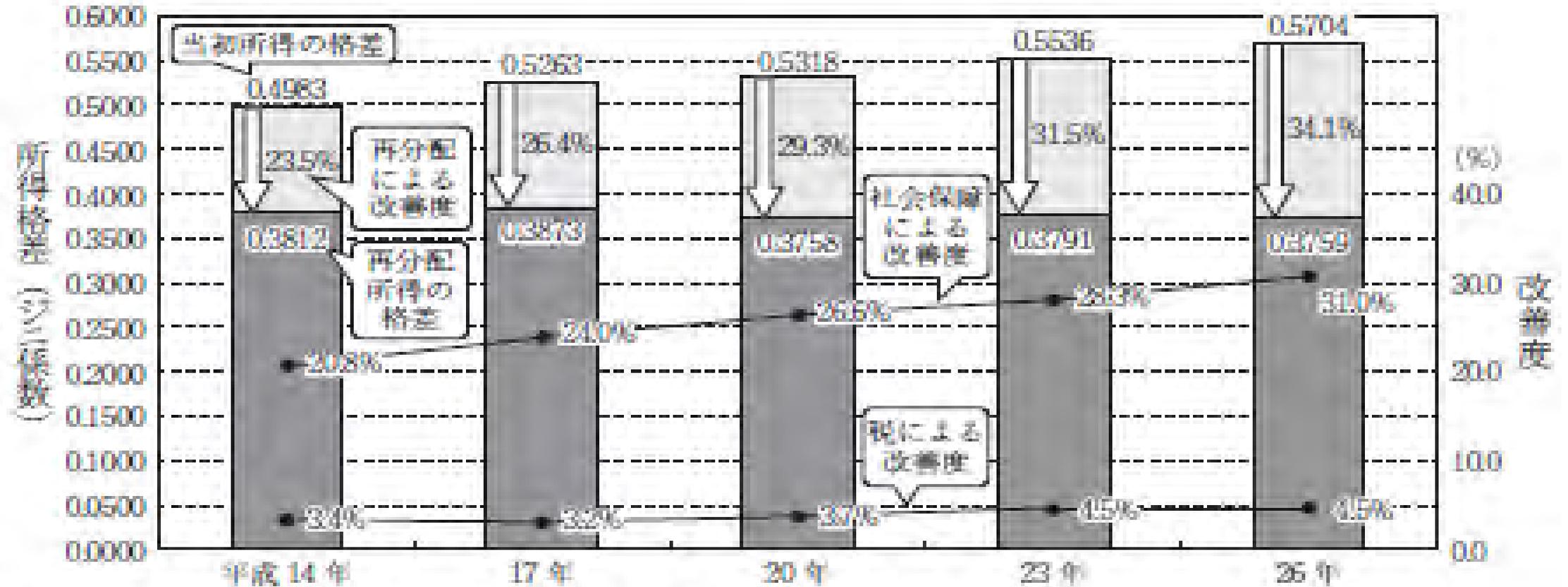


## 公的年金の地域経済を支える役割（平成27年）

都道府県名（高齢化率）	対県民所得比（↓降順）	対家計最終消費支出比
島根県（33.6%）	18.2%	23.5%
鳥取県（31.0%）	17.5%	20.5%
秋田県（35.6%）	16.3%	18.9%
愛媛県（32.1%）	16.2%	19.3%
長崎県（31.3%）	16.0%	18.1%
高知県（34.2%）	15.8%	18.8%
奈良県（30.3%）	15.8%	20.6%

出所：厚生労働省年金局作成。

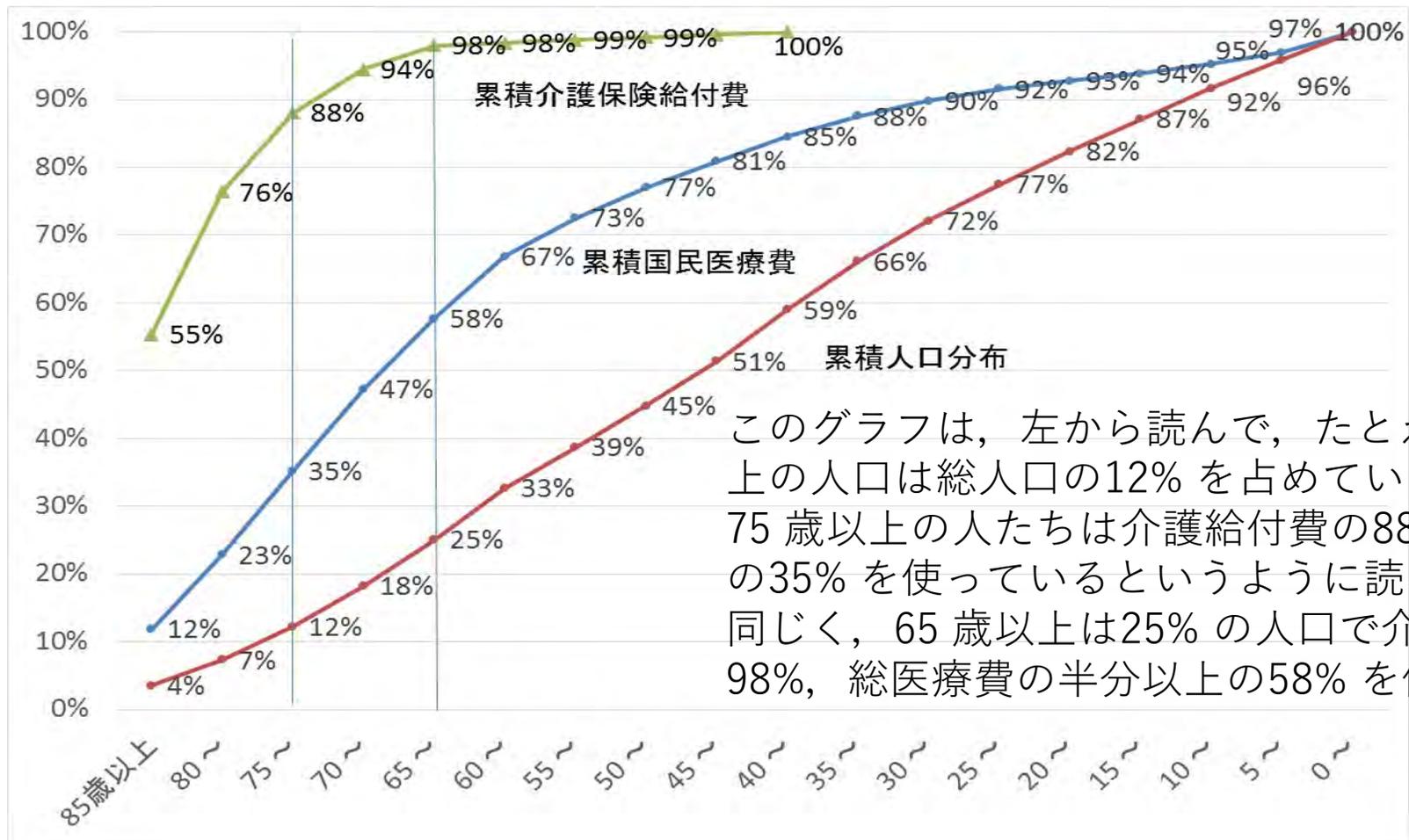
# 所得再分配によるジニ係数の変化



出所：厚生労働省「平成26年所得再分配調査」6頁。

# 消費の平準化 (Consumption Smoothing)

「高齢者」や「退職世代」が負担するとか、「現役世代」・「勤労世代」が負担するという言葉を使っていると、医療保険制度や介護保険制度、そして、実は年金制度の意味を、勘違いして捉えられかねません—僕の本では、時々、普通の人だったら「高齢者」「退職世代」「現役世代」「勤労世代」と書くところを「高齢期」「退職期」「現役期」「勤労期」と書いておくというイタズラをすることがあるかもしれませんので、あしからず……



このグラフは、左から読んで、たとえば、75歳以上の人口は総人口の12%を占めているのですが、75歳以上の人たちは介護給付費の88%、総医療費の35%を使っているというように読みます。同じく、65歳以上は25%の人口で介護給付費の98%、総医療費の半分以上の58%を使っています。

資料：厚生労働省『平成25年度国民医療費』『平成26年度介護給付費実態調査報告』  
出所：筆者作成

# 社会保障と関わる経済学の系譜

## 右側の経済学と左側の経済学

